５年　国語科学習指導案

授業者　　青山　千秋

１．単元名　「推し活！～生きるすばらしさを伝えてくれる登場人物たち～」

（『大造じいさんとガン』　他　椋鳩十作品など）

２．単元の目標

○「推し」の登場人物の魅力を伝えるために、表現に適したよりよい言葉を選択したり相手への伝わり方を想像したりすることで、語感を磨き、語彙を豊かにする。　〔知識及び技能　(1)　オ〕

○「どちらの登場人物を推すに値するのか」を決めるために【言動】や【心情】、【情景描写】などの叙述を読むことを通して、登場人物の【人物像】を豊かに解釈する。

〔思考力、判断力、表現力等　C(1)エ〕

○登場人物を推すために読み進める中で、再読したり他者と交流したりすることで解釈が深まるよさを実感し、これからの読書生活に生かそうとする。　〔学びに向かう力、人間性等〕

３．子どもと教材

６月に実践した『100 万回生きたねこ』では、初読時の感想を交流する中で、「100 万回も生き返ったのだから、もう一回生き返ってもいいはずなのに」とねこが生き返らなかった理由に疑問が集まり「なぜ、ねこは生き返らなかったのだろう」という問いが立ち、時系列に物語を読み進めた。人間と共に生きた 100 万回の人生の意味、初めてそばにいて欲しいと願う白ねことの出会い、自分よりも大切な存在の家族と過ごす日々、そして、白ねこの死。子どもは叙述や挿絵を足掛かりに、ねこの【心情】の変化を読み取っていった。その過程で、ある子は「白いねこへの愛」を自身の読みの軸として読み進め「こんなにも好きになった存在はいなかったんだと思う。だからこそ、それを失ったことによる悲しみが大きすぎて、二度と生き返ることはなかったんだと思う」と述べた。またある子は「自分以外の誰かを愛する経験」を軸として読み、「今までねこは嬉しいとか悲しいとかそういう経験をしたことがなかったんだと思う。白いねこが死んでしまったことはとても悲しいことだけど、そういう感情をもつという経験をすることができたから、自分の人生にある程度は満足することができたんだと思う」と解釈していた。「愛」や「経験」、「感情」という言葉は物語中に一度も出てこない言葉ではあるが、読み取ったことから自分の言葉として生み出す姿があった。

言葉は私たちの世界を鮮やかに彩る力をもっている。先の実践で述べているように、同じ物語文を読んでも感想は異なり、そこから紡ぎ出される言葉も大いに異なってくる。学級の子どもは、その違いを互いに認め合い、価値付けながらそれぞれがもつ言葉に更なる意味付けをする経験を、今している。

本実践は、1951 年から現在に至るまで教科書に採択され、定番教材となっている『大造じいさんとガン』（椋鳩十作／光村図書）を扱う。作者である椋鳩十は「生きる素晴らしさ」を登場人物の姿に込めて書いており、特に『大造じいさんとガン』を発表した当時は戦争真っ只中であり、「生きる素晴らしさ」を直接書くことは許されなかった状況だったため、大造じいさんと残雪の姿を通してそれを伝えたかったとされている。その言葉通り中心人物の大造じいさんと対人物の残雪の姿が【情景描写】や【色彩語】をはじめ多くの優れた叙述で生き生きと表現されている。また、仲間を守るために身を投げうってハヤブサと戦ったり頭領として威厳を示そうとしたりする残雪の姿やそれらに対峙した大造じいさんが「ただの鳥に対しているような気がしませんでした」と残雪への見方が変化する物語終盤は、特に読み応えがある。そして、残雪を撃たないという選択をした場面では、「人間と動物」を越えた結び付きに心を震わさずにはいられない。他にも、残雪を撃つために何年もかけて準備をして戦いを挑もうとする大造じいさんの狩人としての生き様、それを見破りガンの群れを守り続ける残雪のリーダーシップなど、読者を引き寄せる魅力的な登場人物の姿が多く描かれている。

そこに子どもがより注目できるように、本実践では「推し」という言葉を用いて登場人物の魅力に迫っていく言語活動を設定する。「推す」ためには「どのような登場人物なのか」という視点をもって物語

を解釈していくことが求められる。【人物像】を豊かに想像するためには、【心情】が直接書かれている【言動】以外にも既習である【語り手】の視点を通して【情景描写】に目を向けることが肝要である。

今までは意識せずに通り過ぎていた叙述も、実は登場人物の【心情】を表していることを知った子どもは、より深く物語の魅力を味わい、豊かに想像するだろう。そうして解釈した登場人物の「生き様」から自身の「生き方」を考えることが、人生という物語を力強くデザインしていく一助になることを願ってやまない。

４．本単元における『その子らしく学ぶ』

第①時では、「この二人だったらどっちを推す？」と問いかけながらアニメの登場人物を提示する。その後、教科書教材の登場人物も提示し、本実践における「推し」とは「登場人物の言動から読み取れる生き様や【心情】から伝わる魅力」であることを押さえた上で『大造じいさんとガン』を範読し、その後「大造じいさんと残雪だったらどっちを推す？」と問いかける。そして、初発の感想を書くとともに第①時における初読時の「推し」についても書くようにする。

第②時では、前時の解釈の交流から始める。「大造じいさんの狩人としての執念を感じたよ」「最後のセリフかっこいいよね！」と大造じいさんの姿にふれて解釈する子や「残雪って鳥なのに頭がいいよね。だって大造じいさんの作戦を見破っているんだもん」「残雪ってかっこいいよね！だって自分のことよりも仲間を守ろうとするんだぜ」と残雪の姿にふれて解釈する子が出てくるだろう。それとともに「でも、何で大造じいさんはそんなに残雪のことを撃ちたかったんだろう。諦めればいいじゃん」「最後の方に、残雪を撃ちとるチャンスがあったのに何で撃たないのかな」と大造じいさんの行動に対して疑問をいだく子もいるだろう。それらを取り上げ、「大造じいさんはなぜ、残雪を撃たなかったんだろう」という問いを立てるとともに、登場人物の行動の背景にある【心情】を想像し、それに迫っていくことが登場人物の魅力をよりとらえることにつながっていくことを確認する。

単元中盤である第③～⑦時では、様々な解釈にふれながら【人物像】を豊かに想像していくために「ウナギ釣り針作戦」「タニシ作戦」「おとり作戦」「終末」と場面ごとに分けて、全体で読み進めていく。その際、【情景描写】の効果にもふれ、登場人物の【言動】や直接的な表現がなくとも、登場人物の【心情】を想像することができることを確認する。例えば「ウナギ釣り針作戦」において「ウナギ釣り針作戦のことを【語り手】はどのように見ているだろうか」と問いかけることで、「秋の日が美しくかがやいていました」という表現に着目できるようにする。【情景描写】を含めて人物像を想像することはより豊かな解釈につながることを子どもが実感できるようにしていく。このようにして読み深めた【人物像】を根拠に第⑥時では「大造じいさんはなぜ残雪を撃たなかったのか」という問いの解決に迫っていく。ある子は「大造じいさんの残雪への見方が変わったんだよ」と大造じいさんの変化を、またある子は「それだけ残雪の姿が堂々としていたんだね」と残雪の姿を豊かに想像しながら解釈するだろう。

第⑧時ではそれぞれがまとめた「推し」の登場人物について共有することから始める。ある子は「何年もかけて作戦を実行し、目の前に残雪がいるのに撃とうとしなかった大造じいさんの姿が印象的だった」と大造じいさんの【人物像】を解釈し、またある子は「残雪のリーダーシップが印象的だった。仲間を守るために、作戦を見破ったりハヤブサにぶつかっていったりする姿が心に残っているよ」と残雪の姿から【人物像】にふれて解釈するだろう。友達との交流を通して自身では気付かなかった登場人物の魅力を知った子どもは、その登場人物により思いをもって力強く推していくだろう。

第⑨⑩時では『かたあしの母すずめ』『母ぐまと子ぐま』『クマと少年』など教師が選書した複数の作品を読み、「推し」の登場人物についてまとめる活動を行い、交流をする。

登場人物の【人物像】を読み、どの登場人物を推しにするかを考えることは子どもの多面的なものの見方を育むことにつながるだろう。また、推すために自身の言語感覚を発揮させながら表現に合うよりよい言葉を選択する営みは、自身がいだいた感情を相手に的確に伝えられる力の一助となるだろう。そして、人生という物語を歩む主人公として彩り豊かなストーリーを編んでいくことにつながることを切に願っている。

５．単元構想（全 10 時間扱い／本時は第⑧時）

＜教師の投げかけ＞　子どもの表れ　**最終時における子どもの表れ**　○教師の働きかけ

①　＜　みんなはどっちが好き？　＞

ゾロ or サンジ	スイミーor がまくん
いやぁ、私が好きなのは、ゾロかな。だって、自分を常に高めようとする姿がかっこいいよね。それに、「背中の傷は、剣士の恥だ」っていう言葉も好きだよ	スイミーが好きだよ。だって、ピンチになっても諦めないし、「そうだ、僕が目になろう」は、黒い体を生かしたナイスなアイディアと、勇気を感じるよ

＜　『大造じいさんとガン』を読んで、感想を書こう　＞

・これは「人間と動物のかかわり」がテーマな作品かな？『ごんぎつね』とは違うし、仲が良くなったのとも違う気がするし…
・大造じいさんと残雪は、また戦うことを約束したから、結局、ハッピーエンドな感じがするよね。残雪が死ななくてよかった！

②　＜　感想を共有して、問いをつくろう　＞

大造じいさん	残雪
残雪を撃つために、何回も作戦を考えて挑戦していて絶対に獲る！っていう執念深い感じ	ガンの頭領として、作戦を見破って仲間を助ける感じがするよね。威厳もあってかっこいいよね！

・何で大造じいさんは、そんなに残雪のことを撃ちたいの？無視して、違う鳥を狙えばいいわけじゃん！ヤケになっているのかな？
・せっかく残雪を撃ち取るチャンスがあったのに何で撃たなかったんだろう？だって、撃つために何年もかけて準備してきたのに

大造じいさんはなぜ、残雪を撃たなかったのだろう

③　＜　登場人物の設定をとらえよう　＞

大造じいさん	残雪
狩人は、取った獲物を撃ってお金を稼いでいるんだよねだから獲物が獲れなくなったらお金が入らなくなってきちゃうよね	・群れを率いる頭領。大造じいさんの作戦をいつも見破るよね ・大造じいさんのことをどう思っているかの描写はないね

＜　大造じいさんはなぜ、残雪を撃ちたかったんだろう　＞

・ガンが獲れない→お金が入らない→生活できない→残雪のせい→残雪を獲れればまた獲物が手に入るから、どうしても撃ちたかったんだと思う
・最初は、こんな鳥なんかすぐに獲れると思ってたはず。でも、何回も作戦を実行しても撃てなかったから意地になっている気がする。だって、大造じいさんが獲物を狙う場所を変えるっていう方法もあるよね？最終的に狩人としてのプライドがあったと思うよ

④＜「秋の日が美しく輝いていました」とは大造じいさんのどんな心情を表現しているのだろう（タニシ作戦）＞

・それだけ、良い天気だったってこと？
・chatGPT の画像だと何か違うんだよな。
　もっと、ワクワクしている感じがするよ
・いらない一文だと思ったけど、ここからも
　登場人物の心情を捉えることができるね

○本単元における「推し」という言葉に馴染めるように、子どもの身近な作品である「ワンピース」や「鬼滅の刃」などのキャラクターを挙げながら、どちらが好きか問いかける。その際、ビジュアルではなく人物像（行動や言葉、考え方）についての発言を価値づける。その後、教科書に掲載されている物語教材を示し、同様の質問をする。
○子どもが見通しをもって学び進めていくことができるように、どちらかを推すためには、行動や言葉から人物像を捉えていく必要があることを共有する。
○どこに視点を置いて解釈をしているのかが視覚的に捉えられるよう、「大造じいさん」「残雪」「物語の設定」に分類して板書する。
○学び進めていくことで子どもが解釈の変容を実感できるように、第②時の解釈をまとめておく。
○子どもが、第③時以降の見通しをもつことができるようにするために、「残雪を撃つために大造じいさんはどんな作戦をしかけたのか」と問いかけ、概要をつかむ。その際、「作戦名をつけるとしたらどんな名前になるのか」と問いかける。
○３つの作戦について共通理解ができるように、「作戦名」「作戦の内容」「作戦の準備」「大造じいさんの行動」「残雪の行動」などの視点を示してまとめる。
○【情景描写】を具体的にイメージできるように効果を説明した後で、chat GPT で作成した「秋の日が美しくかがやいていました」のイメージ図についてこれはどんな心情を表しているか話し合う。

⑤　＜「ううむ」と「ううん」の違いは何だろう？（うなぎつりばり作戦）＞

・今度こそは残雪を撃つことができるという自信が大造じいさんにはあったと思う。でも、それを残雪に見破られてしまったことで悔しい気持ちの他に、「意外とやるな」っていう感じかな？
・だんだんと残雪への見方が変化してきている気がする。最初は「ただの鳥」ってみてたけど今は対等な存在というか、真剣に戦わないと勝つことが出来ないと思い始めているんだと思うな

⑥　＜大造じいさんはなぜ、残雪を撃たなかったんだろう？（おとり作戦）＞

・仲間を守るために戦い、その結果、傷ついてしまった残雪を撃つのはとても卑怯だと思ったんじゃないのかな？もし撃っていたら大造じいさんの狩人としてのプライドがなくなってしまうと思うよ
・残雪への見方が変わったんだと思う。最初は「ただの鳥」って言っていたけど、この場面では「ただの鳥に対しているような気がしませんでした」となっているね。むしろ、尊敬さえしているよ

⑦　＜大造じいさんに、後悔はないのだろうか？　＞

・「らんまんにさいたスモモの花が…」って書いてあるけど、これは大造じいさんに後悔がないということを表す情景描写だと思うよ
・「いつまでも、いつまでも、見守っていました」と言う姿は大造じいさんが残雪との戦いを楽しみにしている感じがするよ

＜「堂々と戦う」とは、どんなことなんだろう？　＞

・邪魔者が入らないことを言っているんじゃないのかな？
・おとり以外の、違う新しい作戦でまた戦うってことだと思う
・この言葉から残雪のことを認めているのが伝わってくるよね。ただの鳥とは思っていなくて、対等な相手として認めているよね

⑧（本時）　＜推しについて語ろう　＞

大造じいさん	残雪
目の前に残雪がいるのに撃たなかった姿が印象的だった。それから大造じいさんの狩人としてのプライドを感じたよ	仲間を守るために、ハヤブサにぶつかっていく勇敢な姿が心に残っているよ。本当にただの鳥には思えないよ

・同じ推しの人と喋ってみたけど、推すところが違っていて面白かったよ。そこも自分の推しポイントとして入れてみようかな？
・残雪推しだけど、大造じいさん推しの友達と話したら、大造じいさんのプライドについて気づくことが出来て、新たな面を知ったよ

自分の推しの人物は「大造じいさん」です。なぜかというと、残雪を打ち取るためにたくさんの作戦を考え何年もかけて準備をする狩人としての執念を感じました。しかも、傷ついた残雪を撃ちとることをせずに一年間保護し、逃すときに「また正々堂々と戦おうじゃないか」と呼びかける姿にプライドを感じました。

⑨　＜他の作品からも推しを見つけよう　＞

『かたあしの母すずめ』にするよ。母すすめへの見方が変化しているのは、大造じいさんとガンの構成に似ている感じがするんだよね

⑩　＜推しについて語ろう＞

私の推しは『かたあしの母すずめ』に出てくる「母すずめ」です。自分よりも大きな蛇に向かっていく姿に、「子どもを守るんだ！」という強い意志を感じることができました。

○言い方の違いを感じることができるように、音読をして感じ方の違いを比べる。
○大造じいさんの心情の変化をつかめるよう、心情曲線を用いて視覚的にとらえることができるようにする。
○「真っ赤な空が…」の情景描写で大造じいさんの作戦に対する自信や思いをつかむことができるように、そのイメージに合うフリー画像を探したり教師が作成したchatGPTの画像を見たりして想像できるようにする。
○残雪への見方が変化したことをより解釈できるように「もし、残雪を撃っていたら？」と問いかける。
○子どもが推しを語る際に、自分の感情に合った言葉を選択することができるように、教科書巻末についている「言葉の宝箱」を提示したり、言い換えを例示したりして「いい」「すごい」に変わる感情を表現する新たな言葉を獲得できるようにする。
○誰を推しているのか分かるよう、黒板にネームプレートで立場を表明する。
○子どもが多様な価値観にふれることができるように、1回目の交流は同じ推しの人物、2回目の交流は違う推しの人物と関わる場を設定する。もし、推しの人数が偏った際には、同じ推しから新たな魅力を見つけて人物像を豊かにする活動であることを共有する。
○子どもが『大造じいさんとガン』での学びを活かすことができるよう『かたあしの母すずめ』など、魅力的な登場人物や【情景描写】がある作品から、選んでまとめることができるようにする。
○子どもが書きやすいよう、推しのまとめ方を「推し（主張）」「推しの魅力（理由）」「それが書いてある文（根拠）」の三角ロジックで揃える。